

農業を背負う。  
軽やかに。

長野県・小海町。眼下に雲海を望む  
高原の畑作地。清涼な冷気を帯びた  
淡い朝もやの中、目を凝らすとそこに、  
不思議な影が見えてくる。クボタの  
パワーアシストスローを背負い、重い  
はずの作物面を、軽やかに運び続ける  
初老の男性の姿だ。

「厳しい農作業、農業経営の複雑化、  
高齢化していく就農者―そんな環  
境下でも、日本が世界が求める高品質  
の農作物を生産し続けることは、  
出来ないものなのか」

クボタは、そんな「高い壁」に、真っ向  
挑戦しています。

ICT農機による農作業の劇的な  
軽減、クラウドサービスK S A S  
が生む農業経営の見える化が実現す  
る生産性の向上、クボタファームで  
地域と寄り添い実践する新しい農業、  
国産米を世界に広げる、海外販路の  
開拓―つまり、クボタは、農機を製  
造するだけに留まらず、農業に関わる  
すべての領域で、本当に必要とされる  
存在であり続けたいのです。

やがて陽が差しこみ始めた深緑の地。  
かつては通船と言われた作業を軽やか  
にこなすその背中からは、滑らかな機  
械音。それはきつと、わたしたちクボタ  
からの応援の音。農業を背負い続けた  
これまでへの感謝と、生涯現役を貫く  
これからへの声援を、あらん限りに  
込めた想い。

壁がある。  
だから、行く。